



在宅医療に携わる薬剤師の現状調査
～在宅医療を推進する薬剤師教育プログラム作成に向けて～



○佐野敦彦^{1,2}、伊藤洵子³、吉富莉絵³、中田亜希子²、柴田佳太³、赤川圭子³、山元俊憲²

- 1 田辺薬局株式会社
2 昭和大学薬学部 薬物療法学講座臨床薬学部部門
3 昭和大学薬学部 社会健康薬学講座地域医療薬学部門

背景

在宅医療推進
・平成24年度の高齢化率(65歳以上)は24.1%
・6割が自宅を終末期の療養所と希望しているが
8割が病院で終末を迎える現状がある

薬剤師の現状
積極的に参加しようとする意欲の低下が問題となっている¹⁾
適した研修会が少ない等の問題がある²⁾

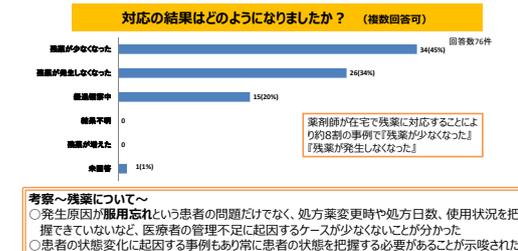
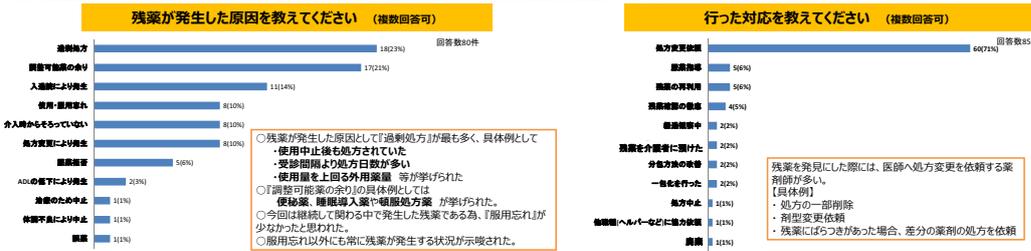
目的
在宅医療に携わる薬剤師の
関わり、抱える問題点、必要な卒後教育を
明確にする

方法

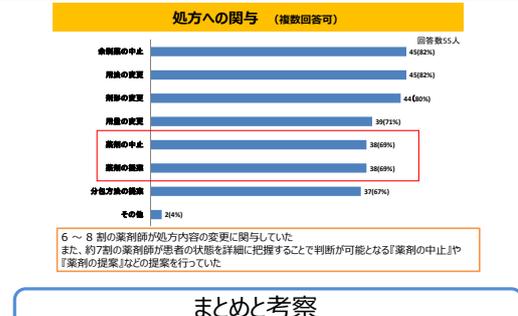
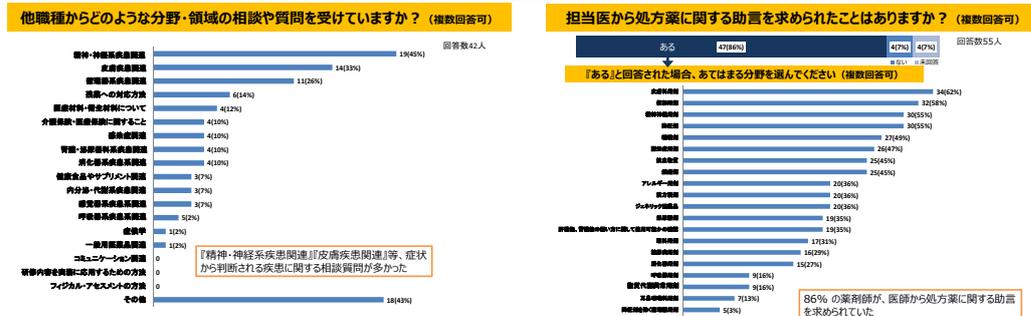
- 1) 対象者 : 在宅医療を行っている薬局(同一企業)に勤務する、訪問担当薬剤師 65人のうち
本調査に同意した薬剤師 55人(33店舗)を対象とした
2) 調査方法 : 昭和大学倫理委員会での審査申請及び承認後、質問用紙での無記名調査を行った
3) 実施期間 : 2013年6月14日～2013年7月5日
4) 調査項目 : 対象者背景 現場から受けている質問内容 残薬への対応方法 処方医からの質問
居宅、施設において困った分野 卒後教育で研修実施を希望する分野

対象者背景
Table with columns: 薬剤師年齢, 在宅医療経験年数, 担当薬剤師の専門分野, etc.

結果・1 居宅、施設にて行ったことがある残薬への対応



結果・2 居宅、施設での活動



結果・3 困った分野 希望する卒後研修



まとめと考察
・本研究により、在宅担当薬剤師は、薬剤の提案を行い、処方薬の選択について医師から助言を求められていることが明らかとなった
・『新たに出現した症状・原因に対する助言に困っている』薬剤師が多く、卒後教育として『症候学』の研修が求められていることが分かった
・症候学の研修を希望する原因として、他職種から精神神経系及び皮膚科疾患などの症状から判断される疾患について相談を求められることが多く、さらに医師からその治療薬への助言が求められることなどが考えられた
今後、症状をベースにした薬物治療について、研修計画を立案し、実施していきたい。

文献 1) 鈴木 三津子, 橋本 美和子, 海保 勇夫, 渡辺 真由子. 在宅医療における予防薬学を学ぶ『かかりつけ薬局』としての医療活動の実践とその地域差. 薬学雑誌128(12):1819-1831, 2008.
2) 廣谷 芳彦, 吉岡 厚子, 堀沢 花子, 川村 太輔, 高橋 智生, 池田 賢二, 浦嶋 謙子, 名倉 明. 在宅医療支援研修会に参加した薬剤師に対するアンケート調査. 薬と化学療法39巻, 付録1:70-73, 2012.